

(様式1)

令和5年度 岩手県立大東高等学校 学校評価報告書

校長：佐々木 信明

総括的な評価	今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な行事等が通常通りに開催することができるようになったため、生徒も授業や特別活動等に積極的に取り組めるようになった。今年度未達成だった項目に関しては、次年度に向け、改善方を明確に掲げ、学校経営力の一層の向上を図りたい。
--------	---

重点目標	達成指標	自己評価		学校関係者評価	改善方策
		評価項目及び実績等	達成状況		
ア 基礎基本の定着と主体的な学びを推進する	学校の課題だけでなく、自主学習に取り組んでいる生徒の割合 【52%以上】	授業評価の2-(6)「学校の課題だけでなく、自主学習に取り組んでいる」で「大変あてはまる」「ややあてはまる」と答えた生徒の割合 【71%】	○	<ul style="list-style-type: none">・自主的に学ぶ姿勢は重要。高い達成率はすばらしい。・学校が自主的に取り組む環境を整えている表れた。・個人の自覚や本人のやる気が大切。意欲を上げる工夫を。	<ul style="list-style-type: none">・BYODの導入が始まることで、個々の端末を積極的に活用した授業改善をさらに進めることが求められる。さらに、個々の端末を家庭学習にも活用させ、自主学習の促進を図ってきたい。
イ キャリア教育の充実と生徒の進路希望の実現を図る	希望する進路目標を達成した生徒の割合【大学・短大等 90%以上、就職 100%】	今年度の進学実績において大学・短大等 【97%】就職 【100%】	○	<ul style="list-style-type: none">・目的を明確にした上で目標を設定していることを願うものです。・生徒の進路希望に学校が寄り添い応援している成果だ。・外部にアピールできる実績だ。・就職後の状況確認等のサポートも大事。	<ul style="list-style-type: none">・外部機関との連携を積極的に活用しながら、生徒、保護者に対して適切な情報提供を行う。また、生徒個々の進路希望に応じたきめ細かい対応と、生徒の成長支援となる指導法の研究を更に進めていく。
ウ 豊かな人間性と社会性を育成する	学校や地域が行う体験活動に参加し、達成感や有用感を持った生徒の割合【90%以上】	「学校や地域が行う体験活動に参加し、達成感や有用感を持っている。」に「大変あてはまる」「ややあてはまる」と答えた生徒の割合 【81%】	×	<ul style="list-style-type: none">・いろいろな体験を通じて総合的な判断により行動できる大人に成長してほしい。・達成感や有用感を生徒たちに抱かせるにはどうすれば良いのか考えたい。・水かけ祭り等、大東高校生の存在感を強く感じる。	<ul style="list-style-type: none">・生徒は学校や地域が行う様々な体験に参加しているが、活動を振り返った時に、達成感や有用感を得るまでには至っていないようだ。それぞれの活動の実施前、実施後における説明や振り返りを充実させ、それぞれの活動に対する生徒の満足感を向上させたい。

(様式1)

				<ul style="list-style-type: none"> ・目標に届かない割合は地域に問題があるのかもしれない。 ・授業の一環とするなど体験活動への参加方法を工夫する。 ・地域等への体験活動やボランティアに積極的に関わってほしい。良い体験に繋がるはず。 	
エ 実効的に機能する「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる	学校生活に満足している生徒の割合 【90%以上】	「本校に入学してよかったと思う。」に「大変あてはまる」「ややあてはまる」と答えた生徒の割合 【84%】	×	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに「いい高校生活が送れた」と思うような校風を望む。 ・入学してよかったという生徒を増やすことが入学生増加につながると思う。 ・満足していない生徒個々の理由に改善点があるだろう。 ・いじめについて防止策、対処方法を具体的に示すべき。 ・小規模校ならではの、生徒と教員の距離感を活かしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観をもった集団の中では、生徒同士で意思の疎通がうまくいかない事例は当然のように発生する。多様性を尊重しつつも、互いを認め合う意識を生徒に身に付けてもらえるよう、様々な機会をとらえながら指導していきたい。
オ 地域活動に積極的に参加し地域に貢献する人材を育成する	将来希望する職業について考えている高校2年生の割合 【50%以上】	将来希望する職業について考えている」に「大変あてはまる」「ややあてはまる」と答えた2年生の割合 【87%】	○	<ul style="list-style-type: none"> ・進学者は視野を広げる工夫が必要。 ・将来について考えていない生徒に何かきっかけを作ってあげられると良い。 ・今年は職場体験ができて良かったと思う。 ・地域貢献と希望する職種との関連性を多方面から捉えさせる工夫を施す。 ・協議会として生徒の皆さんの視界を広げるお手伝いができればと思う。 ・様々な体験や職場訪問により将来がイメージしやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、職場体験も通常通り開催できるようになった。地域の企業での体験を通じて、自分の将来の職業について考える機会を得たことは、生徒の成長に大きな影響を与えた。今後も職場体験や各講演会への参加、探究活動等を通じて、生徒の職業観を育て、地域に貢献できる人材を育成したい。